

第25期第4回理事会議事録

日時：平成2年5月23日（水）18：00～20：50

場所：気象庁観測部 会議室

出席者：浅井，岡村，松野，河村，村上，木田，安田，
能登，中村，古賀，菊地，武田，廣田，多田，
瓜生，石島，関口，浜田，オブザーバー，宮川

議事

A. 報告事項

1. 第17回常任理事会議事録は一部修正の上承認された。

2. 各委員会報告

「庶務」

主なものは次のとおり

ア 計測自動制御学会主催「第16回リモートセンシングシンポジウム」の協賛依頼を承認した。

期日 10月4・5日

会場 機械振興会館（東京都港区芝公園 3-5-8）

イ 日本地理学会古気候復元研究グループ主催「小氷期の気候」の後援依頼を承認した。

期日 9月25日～28日（1991年）

会場 東京都立大学国際交流会館

ウ 関西支部の第12回夏季大会

期日 7月23日～25日

会場 なにわ会館

エ 平成3年度の大会開催地及び担当の確認

春季大会 東京大学

秋季大会 中部支部

オ 事務局員の交代

退職 松永俊行

後任 南 和夫

「会計」

- ・4月分の収支について資料説明があった。
- ・平成元年度の監査結果の報告があった。

「天気」

- ・4月号から紙質をよくした。
- ・印刷方式の検討は6月の委員会で行う予定。

「気象集誌」

- ・3号の予定論文の報告があった。
- ・電子掲示板掲載リスト1ヵ月分（5月18日ま

で）のリストが提出された。

「気象研究ノート」

電子出版方式を検討の結果170号から電子組版で出版することとした。

「国際学术交流」

基金額が2,500万円に達した。来年度から年間の予算額を増額し活動を活発にしたい。

「講演企画」

春季大会のポスターセッションの申込は例年の2倍となっている。また、「ビデオ」利用の発表者が2名ある。

「総合計画」

- ・国際地球物理金沢会議は予定どおり順調に準備が進んでいる。
- ・気象関係のセッションの日程（予定）等の紹介があった。

「IAMAP」

- ・学術会議には IAMAP と IAHS と調整したのち提案する予定
- ・気象研究所で運営委員会の準備のための会議を6月に行う予定である。

B. 審議事項

1. 会員の新規加入等について次のとおり承認された。

新規加入 個人 15名

団体 1

退会 個人 3名

2. 平成年度の事業報告・決算報告および平成2年度の予算案・事業計画案について

資料に基づき中村庶担当理事及び能登会計理事から説明があり一部修正の上承認された。

3. 複写権の委託について

著作権問題検討委員会から「日本複写権センター」設立に関する趣意書が届き、協力の依頼があった。このことについては常任理事会で検討することとした。

4. 地球惑星科学関連学会合同大会について

合同大会は視野が広がりメリットがあるが実行面では色々困難がある。当面、中層大気やオゾン等の部門でジョイントの講演会・シンポジウムを開

催していく方法が考えられる。気象学会としては今後も検討課題とすることとした。

5. 選挙制度等に関する会員からの提言について
現在の役員選挙のあり方について提言があり、第17回常任理事会の検討をもとに、選挙制度及び役員
の任務等について審議された。第17回の常任理

事で議論されたように選挙制度の問題に限らず、学会運営に関する役員制度も含めて、今後も引続き検討することとした。会員の意見は、「天気」6月号の「会員の広場」に掲載して会員の間でも議論してもらうよう、選挙管理委員会が処置を行った。

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
宇宙科学の国際夏期大学	1990年7月30日 ～8月17日	CNES	マルセイユ	Vol. 37, No. 1
水文・水資源学会	1990年8月1日 ～3日		東京(中央大)	
日本農業気象学会	1990年8月7日 ～10日		札幌(北大)	
西太平洋地球物理会議	1990年8月21日 ～25日	AGU	金沢	Vol. 37, No. 6
日本地理学会	1990年9月30日 ～10月1日		上越市(上越教育大)	
WMO 診断と長期予報 に関する国際研究集会	1990年10月8日 ～19日	WMO	中華人民共和国	Vol. 36, No. 11
日本雪氷学会	1990年10月15日 ～17日		十日町	
日本気象学会 平成2年度秋季大会	1990年10月24日 ～26日	日本気象学会	京都府総合見本市会館	
第27回自然災害科学 総合シンポジウム	1990年10月30日	同実行委員会	熊本郵便貯金会館	Vol. 37, No. 4
大気汚染学会	1990年10月31日 ～11月2日		金沢	
生気象学会	1990年11月16日 ～17日		長崎(長崎熱帯研究所)	
環境科学会	1990年11月28日 ～30日		東京(虎の門パストラル)	
第11回風工学シンポジウム	1990年12月6日 ～7日	同専門委員会	中央大学理工学部	Vol. 37, No. 1
気候変動による環境・社会 影響に関する国際会議	1991年1月27日 ～2月1日	UNEP	筑波大学	Vol. 36, No. 11
第20回測地学・地球物理学 学連合総会	1991年8月11日 ～24日	IUGG	ウィーン	Vol. 36, No. 12

編集後記：毎年梅雨どきになると、北と南の気団の違いをまさしく肌で感じることができます。前線が南下した時の朝夕の凌ぎ易さは捨て難いのですが、ここはひとつ夏らしい夏に期待を込めて、南の気団に声援を送ることといたしましょうか。

編集委員会では「天気」の印刷方式を従来の活版から、現在の「集誌」が採用しているような電算写植による平版に移すべきか否かについて検討してきました。

先日、理事会でも議論していただきましたが、「天気」の場合月一回の刊行を厳守しなければならない事、多種多様の原稿を取り扱わねばならないこと等々のため、今すぐ移行してもメリットは少ないというのが現状です。

当面は結論を急がずに検討を継続してゆくこととします。活字のキレの良さを好まれる方には朗報といえるかもしれませんが。

(S1. Y)